



6月号で募集した「みんなのSDGs」。応募のあった企業・団体に日本福祉大学の学生と一緒にインタビューに行ってきました！！インタビュー内容（第1弾）を報告しますので、皆さんも身近に取り組まれているSDGsのことを知って、地球に良いことをしていきましょ〜♪第2弾の11月号もお楽しみに！

桜井工業株式会社

岩倉市内の水道管の布設工事などを行っている企業

インタビュー：
日本福祉大学3年



西森元紀さん



▲桜井工業株式会社
代表取締役 櫻井芳樹さん

SDGsの取組

2013年から会社の敷地内に募金型自動販売機を設置し、売上の一部を途上国に寄付することで、生活に欠かせない水を届ける事業に協力しています。

この活動はSDGsの前身であるMDGsの頃から行っていてSDGs目標6「安全な水とトイレを世界中に」に繋がっています。また、災害発生時には、迅速な復旧活動を行う協定を岩倉市などと結んでいて、SDGs目標11「住み続けられるまちづくりを」に繋がっています。

インタビューの感想

社長自らが進んでSDGsに取り組むことにより、社員にもその意識が浸透していくし、募金型自動販売機のようにコツコツ継続的に続けていく事が大切だと感じました。自動販売機を利用することで、義務感ではなく無意識に募金活動に参加出来るのが良いと思いました。

Mugi ストロークライフ岩倉

土から生まれ土に還る循環型のエコなストローを作り、環境問題を考える団体

インタビュー：
日本福祉大学4年



内藤美希さん



▲Mugi ストロークライフ岩倉
会長 林智光さん

SDGsの取組

ストローにするために、麦の茎が丈夫になるように育てられているため、食器と同じように洗い乾燥させることで何度も使うことができます。不要になった際は、土に埋めることで肥料となり土に還るため、環境に良い素材でできています。また、麦を栽培することによって、米を栽培していない時も畑の状態を保つ役割を担っています。これらの活動は、SDGs目標14・15「海と陸の豊かさを守ろう」に繋がっています。

インタビューの感想

この取り組みを始めたことをきっかけに、他にできることはないか考えるようになったと聞き、私も環境に良いものを使う等できることから一つ一つ取り組んでいこうと思いました。環境に良い麦ストローを実際に使ってみて、プラスチックのストローと使い心地が変わらなかったのが、このインタビューや広報紙での紹介をきっかけにもっと広まるといいなと思いました。